

「女性の活躍促進・企業活性化推進営業大作戦」

東京労働局長(西岸 正人)の企業訪問

平成 26 年 12 月 4 日、小松川信用金庫

理事長 江島 貞男氏をお訪ねしました。



ポジティブ・アクション普及促進の
ためのシンボルマーク「きらら」



<訪問企業プロフィール>

小松川信用金庫

理事長 江島 貞男

・東京都江戸川区平井 6-23-23

・労働者数 159 名 (うち女性 44 名)

※2014 年 11 月現在

理事長 江島 貞男氏

(会長 羽下 博氏、常勤理事 色摩繁樹氏にも
ご出席いただきました)

<訪問のあらまし>

○地域の中の信用金庫としての信頼の基盤は人材

当金庫は、大正 7 年の創業以来、地域の発展と共に歩んできました。

お客様(会員・取引先)の発展があってこそ当金庫があり、職員のたゆまざる努力と安定した生活があって当金庫があるという「三者共栄」を経営の基本姿勢としてきました。

人材育成については、男女を問わず、長く勤務することで自らのスキルアップを実現して、金庫業務の一翼を担う職員に成長してほしい、という考え方で当たっており、こうした育成方針の結果が、平均勤続年数が男女ともに 10 年を超えているというような数字にあらわれてきていると考えています。

○女性労働者をめぐる状況

金庫業務の 8 割程度は、いわゆる営業店業務であり、大きく分けて「預金」、「融資」、「為替」の三つに分かれます。

女性労働者は、「預金」では、テラー業務(窓口業務)やそれに付随した後方業務に従事し、「信用金庫の顔」として活躍している一方、「融資」や「為替」でも、スペシャリストとして活躍している者もおります。

就業継続のために、「育児・介護休業規程」の充実や、育児・介護等でやむを得ず退職した場合も再雇用の機会を与える「職場復帰制度」が利用できるようにするなど、職場環境の整備に努めてきた結果、平均勤続年数は 13 年 8 カ月と長くなり、ここ 3 年間では育児休業取得者は 100%復職しています。

○女性労働者活躍への取組

女性は、各業務のスペシャリストは育てているものの、総合的に業務を行える者がまだ育っていないと感じています。

そこで、今年度から将来の管理職候補として女性労働者 15 名を含む 81 名を対象に、半年にわたる「マネジメント強化研修」を実施し、取組をスタートしました。この研修は、管理

職として求められる資質・考え方の習得を目的としていますが、女性労働者には現在の地位に甘んずることなく、果敢に管理職を目指してほしいという金庫としてのメッセージを与えています。

一方、女性の管理職登用に当たっての課題は女性労働者を指導する立場にある幹部職員にもあると考えられます。幹部職員は女性職員を「金庫の戦力として育てる」という意識を明確に持ち、様々に創意工夫するよう指導をしており、幹部職員の人事考課の評定項目にこれを設定することで、女性の活躍促進は金庫全体で取り組む課題、という意識付けを行っています。



東京労働局長 西岸 正人

○今後に向けて

女性職員が「機会を与えられていないからできない」ということがないように様々な職域を経験させる仕組みづくりをし、今後、女性管理職が育っていけば「あの人を目指そう」というように後に続く後輩たちもキャリアパスが見えやすくなり、さらに加速がつくと思いますので、よいモデルケースを作りつつ進めていきたいと考えています。

そして、こうした取組は、地域の中の信用金庫としての変わらぬ信頼につながるだけでなく、地域全体にもよい効果を与えるものと信じています。

.....

東京労働局長より、「ポジティブ・アクション応援サイト」、「女性の活躍推進宣言コーナー」の登録、ご活用をお願いしました。

(参考)

ポジティブ・アクション応援サイト

<http://www.positiveaction.jp/pa/index.php>

女性の活躍推進宣言コーナー

<http://www.positiveaction.jp/declaration/>

